

# 株式会社北國フィナンシャルホールディングス オンライン会社説明会資料

2022年11月11日

総合企画部 部長 菊澤 智彦

[東証第1部：7381]

## 1. 北國銀行・北國FHDについて

## 2. 業績サマリー

- ・2023年3月期 第2四半期決算の概要 7
- ・2023年3月期 通期業績予想 8

## 3. 中長期経営戦略 ～進捗状況～

- ・中長期的に目指す水準 10、11
- ・中長期経営戦略 2 0 2 2 12
- ・余剰資本について 13
- ・株主還元方針とROE目標について 14
- ・政策保有株式の削減について 15
- ・役員報酬制度、最長任期 16
- ・従業員向け株式付与制度 17
- ・プライベートエクイティを通じた成長支援 18

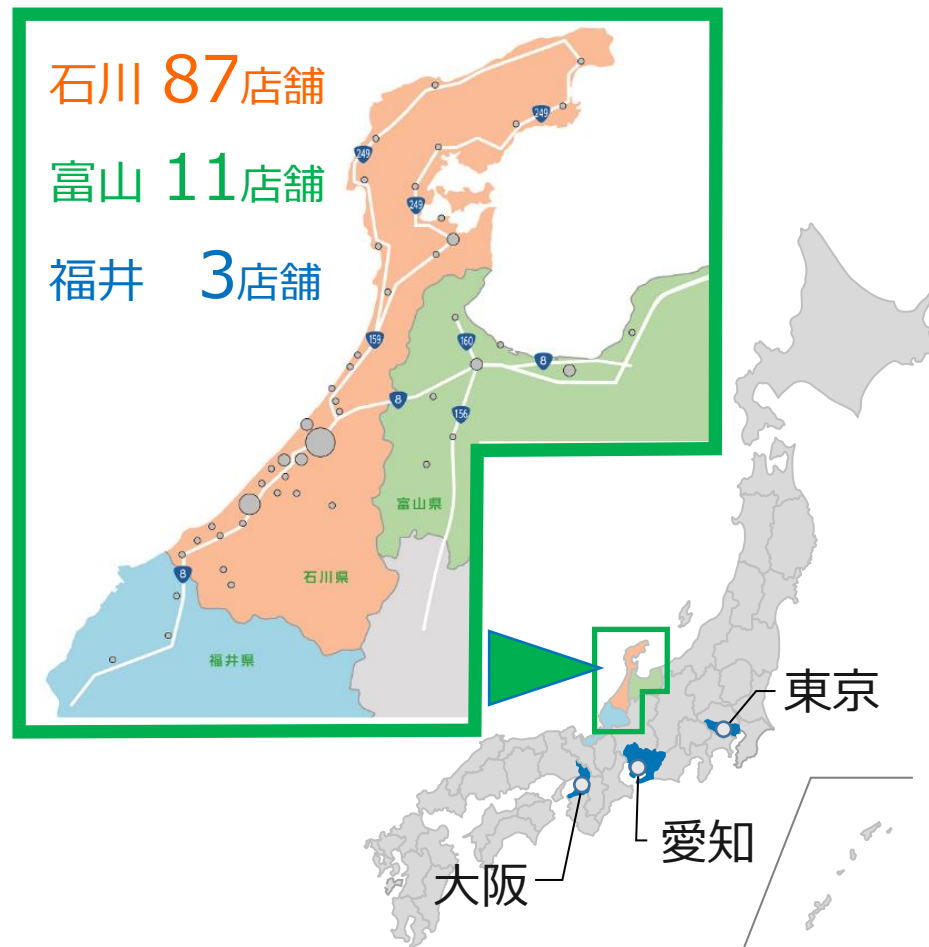
# 1. 北國銀行・北國FHDについて

# 北國銀行・北國FHDについて

## 会社概要(2022.3月期)

名称	株式会社北國銀行
本店所在地	石川県金沢市広岡 2丁目12番6号
設立	1943年12月18日
総資産	5兆5,104億円
貸出金	2兆6,039億円
預金 (含む譲渡性預金)	4兆2,727億円
格付け	S&P : BBB+ R&I : A+
貸出金シェア (北陸三県)	23.9%
預金シェア (北陸三県)	20.3%
貸出金シェア (石川県)	48.8%
預金シェア (石川県)	54.5%

## 店舗ネットワーク



### 都市・海外支店

東京都	1店舗
大阪府	1店舗
愛知県	1店舗
シンガポール	1店舗

### 駐在員事務所&駐在員

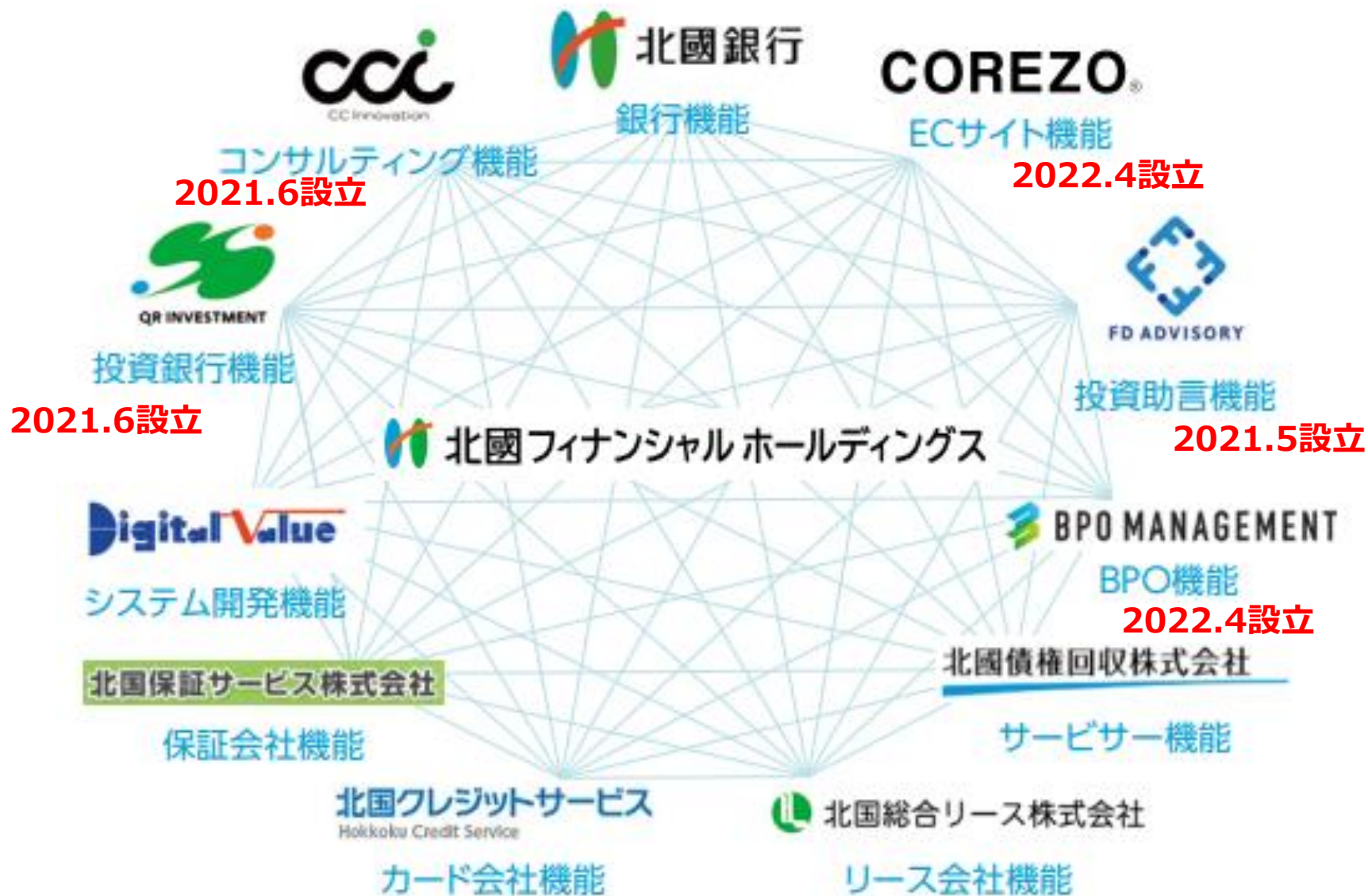
上海	1か所
ホーチミン	1か所
シリコンバレー	1名

### 海外現地法人 (CCI)

ベトナム	1か所
タイ	1か所
シンガポール	1か所

店舗数 : **105**店舗 (うち、店舗内店舗:**11**店舗) ⇒ 拠点数は**94**店舗

# 北國銀行・北國FHDについて



## 2. 業績サマリー

# 2023年3月期 第2四半期決算の概要

## 損益の概要

### 【連結】

(単位：百万円)

	21年9月期*2	22年9月期	増減	増減率
経常収益	44,736	51,328	6,592	14.7%
経常利益	15,817	20,463	4,646	29.3%
中間純利益*1	9,875	12,895	3,020	30.5%

\*1：親会社株主に帰属する中間純利益

\*2：持株会社体制移行前の北國銀行連結

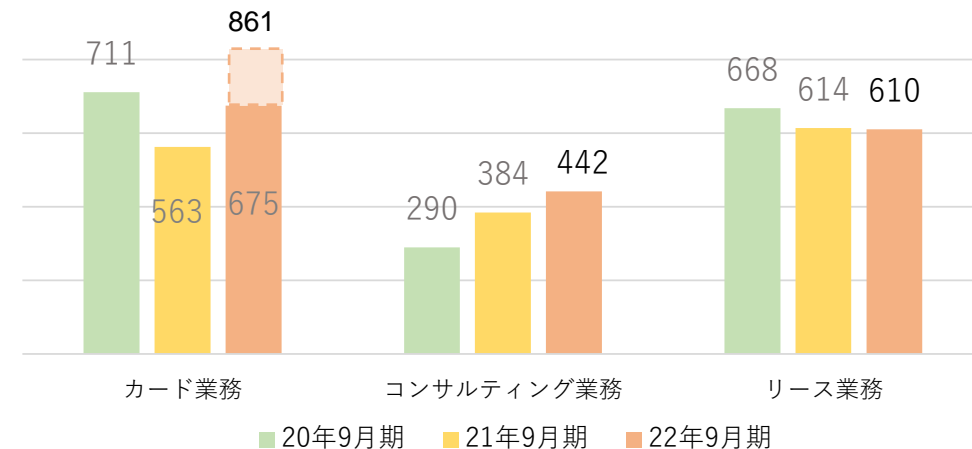
### 【北國銀行 単体】

(単位：百万円)

	21年9月期	22年9月期	増減	増減率
経常収益	39,486	45,167	5,681	14.3%
経常利益	15,255	19,996	4,741	31.0%
中間純利益	9,618	12,819	3,201	33.2%
コア業務純益	6,344	7,343	999	15.7%

## 新業務収益の推移(連結)

(単位：百万円)



[ ]: 新会計基準の影響

## (総括)

・連結、単体ともに中間期としては2中間期連続の増収増益

## (概要)

- ・引当方法の変更により不良債権処理費用が前年を大きく下回ったことから、経常利益は前年同期を上回る  
(引当方法の変更による影響 33億円の戻入益)
- ・一部ソフトウェアについて使用見込みがないとして特別損失を計上したものの、中間純利益は前年同期を上回る
- ・北國銀行単体のコア業務純益は2中間期連続の増加

## (主な項目)

貸出金利息	119億円	(前年同期比 △ 1億円)
有価証券利息	70億円	(前年同期比 + 15億円)
不良債権処理額	1億円	(前年同期比 △ 48億円)
有価証券売買損益	118億円	(前年同期比 △ 16億円)

## (預貸金残高・連結)

- ・貸出金残高は事業性貸出が減少し前年同月末比1.9%減少
- ・預金等残高は個人預金が増加し、前年同月末比4.1%増加

## (重点取組業務について)

- ・カード業務：旧会計基準では861百万円と順調に推移  
(新会計基準の影響：186百万円、前年同期201百万円)
- ・リース業務：世界的な半導体不足の影響からリース対象資産の納品が遅れ、利益ベースで前年同期を下回る

## (政策保有株式の削減)

- ・半年間で8先、簿価12億円の売却を実施

# 2023年3月期 通期業績予想

- 新型コロナウイルス感染症の状況に回復が見られる一方、資源高や円安を背景として景気回復には不透明感が漂っております。
- 中間業績は当初予想を上回ったものの、景気懸念から不良債権処理、有価証券関係損益で追加コストが発生する可能性もあり、通期業績は当初公表から変更いたしません。
- 年間配当は当初公表通り一株当たり100円から変更ありません。引き続き自己株式取得を含め株主還元を実施してまいります。

(通期)

【北國フィナンシャルホールディングス連結】

	2023年3月期 予想	(ご参考) 2022年3月期実績
経常利益	16,500	19,167
当期純利益 <sup>*1</sup>	10,000	9,387

\* 1：親会社株主に帰属する当期純利益

【株式会社北國銀行単体】

(百万円)

	2023年3月期 予想	(ご参考) 2022年3月期実績
経常利益	14,500	18,091
当期純利益	9,000	9,043
コア業務純益	11,500	13,033

一株当たり配当金

(予想)

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
年間配当	80円	70円	80円	90円	100円
うち中間配当	40円	35円	30円	40円	50円
うち期末配当	40円	35円	50円	50円	50円

\* 2：2019年3月期から2022年3月期中間までは北國銀行の配当実績を記載しております。



# 3. 中長期経営戦略～進捗状況～

# 中長期的に目指す水準

～将来の環境予想と、取組み方針に基づき中長期的にイメージする水準～

※2022.4.28公表内容

項目	2022/3期 実績	2025/3期 3年後	2027/3期 5年後	2032/3期 10年後
経常利益（連結）	192億円	210億円	231億円	<b>377億円</b>
当期純利益（連結）	94億円	129億円	144億円	<b>240億円</b>
重点取組事業収益（連結） （カード・リース・コンサルティングを含む 新事業収益）	32億円	79億円	95億円	<b>125億円</b>
ROE（連結）※	4.2%	5.7%	5.9%	<b>8.0%</b>

※ ROEは、国内基準行ベースのバーゼルⅢコア資本に対する親会社株主に帰属する当期純利益額により算出

# 中長期的に目指す水準（詳細内訳・連結）

※2022.4.28公表内容

項目	2022/3期 実績	2025/3期 3年後	2027/3期 5年後	2032/3期 10年後
預貸金利息	238億円	240億円	243億円	<b>248億円</b>
役務利益等	72億円	114億円	133億円	<b>174億円</b>
カード事業	12億円	30億円	33億円	<b>34億円</b>
リース事業	12億円	18億円	20億円	<b>27億円</b>
コンサルティング&アドバイザー	6億円	24億円	30億円	<b>40億円</b>
市場運用	294億円	190億円	160億円	<b>221億円</b>
与信関係費用	118億円	30億円	30億円	<b>30億円</b>
経費	303億円	310億円	289億円	<b>254億円</b>
うちシステムコスト※	69億円	80億円	63億円	<b>43億円</b>
当期純利益	94億円	129億円	144億円	<b>240億円</b>

※：ソフトウェア開発費（減価償却費）とランニングコスト（事務委託費等）の合計

## 企業価値向上にむけての3つの施策

### 1. 資本効率の改善

- ◆国内基準行への転換による余剰資本の創出
- ◆総還元性向40%以上と、地方銀行最高水準のPBRまでの自社株買い
- ◆政策保有株式を保有しない方針、3年で50%を売却する

### 2. 経営陣、社員、株主のインセンティブの同一化

- ◆2年後のROE5.0%、10年後のROE8.0%を目指し、ROEに連動した報酬制度を導入

### 3. プライベートエクイティを通じた成長支援

- ◆100%子会社の株式会社QRインベストメントを通じ、積極的に資本投入

<進捗状況>

P.13~15

P.16~17

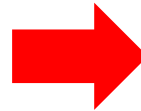
P.18

# 余剰資本について

自己資本比率8.0%を維持するために必要なコア資本は1,784億円。  
 余剰資本1,059億円を株主還元と資本コストを勘案し、成長投資に向ける。

2022/3月期  
 国際基準行ベース

総自己資本	2,864億円
有価証券評価差額金	367億円
劣後債	200億円



2023/3月期 (予想)  
 国内基準行ベース

余剰資本	492億円
1,059億円	367億円
	200億円
コア資本 1,784億円	

成長投資	376億円
株主還元	116億円

有価証券評価差額金	367億円
-----------	-------

劣後債返済	200億円
-------	-------

成長投資	376億円
M&A	150億円
新会社設立	150億円
QRIのPE投資	76億円

株主還元	116億円
自社株買い	90億円
配当	26億円

= 12.6%

リスクアセット  
 2兆2,715億円

= 8.0%

リスクアセット  
 2兆2,308億円

資本コスト 5%~7% で検討

# 株主還元方針とROE目標について

**10年後のROE8.0%目標を前倒しする。**

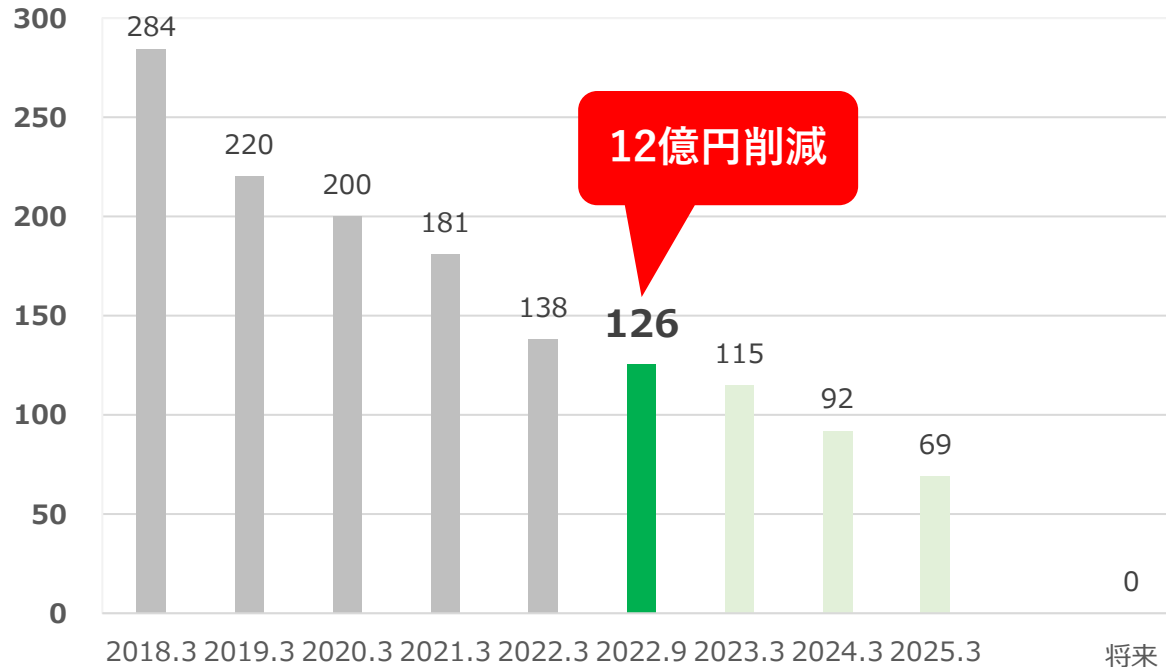
項目	2022/3期 実績	2023/3期 1年後	2024/3期 2年後	2025/3期 3年後	2027/3期 5年後	2032/3期 10年後
総還元性向	60%	115%	40%以上			
配当総額	24 億円	26 億円	増配方針			
自己株式取得額	30 億円	90 億円 (※)	継続的に実施			
連結自己資本比率 (国内基準)	9.94%	9.66%	8.0%以上			
連結ROE (国内基準)	4.2%	4.5%	5.0%	5.0%~8.0%		8.0%

※2022年10月末までの自己株式取得額 980,400株 約45億円

# 政策保有株式の削減について

**3年間で69億円削減する計画は、半年間で12億円削減（進捗率18%）  
 当社資本コストに見合っているか、保有の妥当性を検証。**

上場政策保有株式の簿価残高（億円）



上場政策保有株式の削減状況

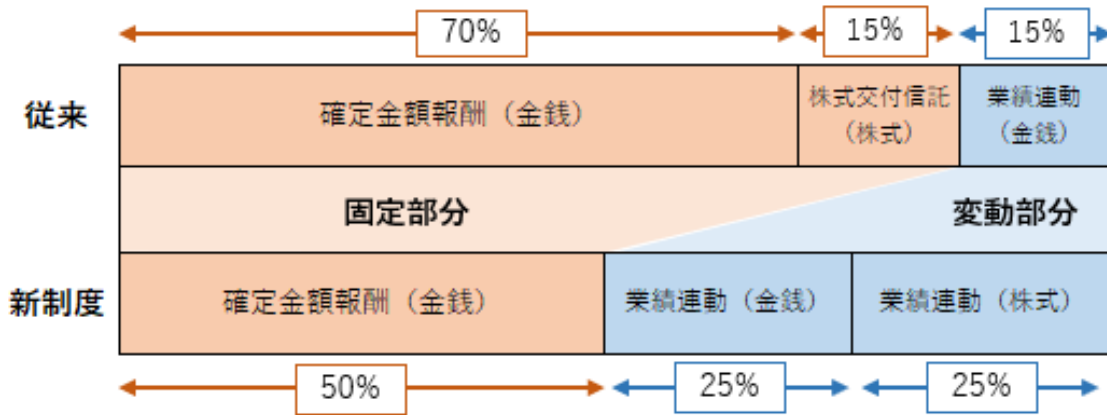
	銘柄数	簿価残高（億円）
2022.3	50	138
2022.9	43	126
削減 (一部売却先含む)	▲ 8	▲ 12
3ヶ年KPI	—	▲ 69
進捗率	—	18%

# 役員報酬制度、最長任期

- 業績連動の割合を高め、持続的な企業価値向上を志向するインセンティブとする
- 併せて、ガバナンス体制強化のため、役員最長任期を定める

## 役員報酬制度

<改定イメージ>



※業績連動株式報酬は退任時までの譲渡制限付

<構成比率>

ROE	取締役社長				取締役 (社長除く)			
	確定 金銭	業績連動 金銭	株式	計	確定 金銭	業績連動 金銭	株式	計
8%以上	45%	30%	105%	180%	50%	25%	90%	165%
7~8%未満	45%	30%	75%	150%	50%	25%	65%	140%
6~7%未満	45%	30%	45%	120%	50%	25%	40%	115%
5~6%未満	45%	30%	25%	100%	50%	25%	25%	100%
4~5%未満	45%	25%	20%	90%	50%	20%	20%	90%
3~4%未満	45%	20%	15%	80%	50%	15%	15%	80%
2~3%未満	45%	15%	10%	70%	50%	10%	10%	70%
1~2%未満	45%	10%	5%	60%	50%	5%	5%	60%
1%未満	45%	0%	0%	45%	50%	0%	0%	50%

中期的に  
目指す水準

## 役員最長任期

監査等委員でない取締役(社長)	任期1年。但し、 <b>10年</b> を超えて任期満了時は取締役候補者として選任しない
監査等委員でない取締役(社長除く)	任期1年。但し、 <b>65歳</b> を超えて任期満了時は取締役候補者として選任しない



# 従業員向け株式付与制度

■ 従業員向け株式付与制度を導入し、モチベーション向上・オーナーシップ醸成を図る

## 従業員向け株式付与制度

ROE	給与以外の報酬		報酬の構成比(※)			目安 付与額	
	賞与	株式付与	固定	株式	計		
8%以上	500%	430%	95%	24%	119%	30億円	
7~8%未満	500%	315%	95%	17%	112%	22億円	
中期的に 目指す水準	6~7%未満	500%	210%	95%	12%	107%	15億円
	5~6%未満	500%	100%	95%	5%	100%	7億円
	4~5%未満	500%	50%	95%	2%	97%	3.5億円
	3~4%未満	500%	50%	95%	2%	97%	3.5億円
	2~3%未満	500%	25%	95%	1%	96%	1.7億円
	1~2%未満	500%	0%	95%	0%	95%	—
	1%未満	500%	0%	95%	0%	95%	—

(※)2022年3月の支給水準を固定報酬95%として計算

【参考】ROE水準5%、月収30万円の場合の株式配布のイメージ

賞与 : 30万円×500%=150万円 → 固定報酬は30万円×12か月+150万円=510万円

株式付与 : 30万円×100%=30万円

報酬合計 : 510万円+30万円=540万円 → 株式部分は5% (30万円/540万円)

業績指標	ROE
交付株式	譲渡制限付株式

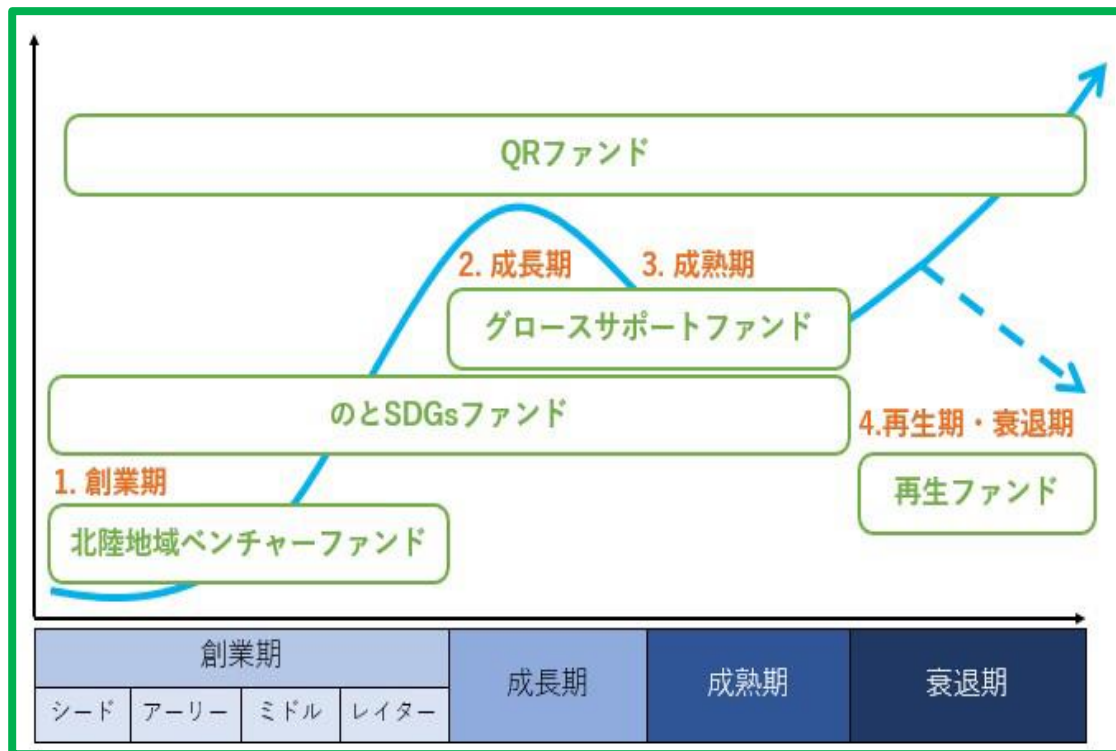
ROEが8%を超える場合、株式付与額を含むと、地銀トップレベルの報酬水準となる。

# プライベートエクイティを通じた成長支援

QRインベストメントで、ライフステージごとに5つのファンド  
(総額170億円超)を運営、IRRは約5%~10%。



## 各ファンドの位置づけ



## ファンド投資状況 (2022.9時点)

ファンド名	総額 (億円)	件数	金額 (億円)
北陸地域ベンチャーファンド	—	1	1.0
のとSDGsファンド	7	7	2.6
QRIグロースサポートファンド	10	1	0.5
いしかわ中小企業再生ファンド	50	27	23.8
QRファンド	100	2	5.1
合計	—	38	33.0

## 計画 (投資件数・ファンド総額)

	3年後	5年後	10年後
投資件数	185	400	805
ファンド総額 (億円)	500	1,000	2,000

# (ご参考) 北國FHDの書籍紹介



- ・ビジネスモデル変革のプロセス
- ・地域金融機関のあるべき姿



- ・コンサルティング・キャッシュレスの展開
- ・クラウドバンキングとモダナイゼーション
- ・次世代版地域総合会社



- ・システム戦略のケーススタディ
- ・過去からの教訓
- ・あるべきシステム戦略とエコシステム



**最新刊2022年8月31日発売**

Quality Company,  
Good Company.  
ともに、未来へ。

北國フィナンシャルホールディングス

お求めは、ECサイトCOREZOで！

COREZO  
SELECT SHOP



電子書籍のご購入は

Amazon、楽天koboなど